

神山小学校グランドデザイン

子ども、保護者、地域の方々が元気になる学校

2017. 4～

阿賀野市の教育「子どもの未来を拓く学校教育」

教育目標

明るく 思いやりのある 子ども

自立・・・基礎基本を身に付け、自ら問題解決に取り組む
共生・・・互いよさに気付き、支え合い、学び合う
信頼・・・学校を開き、保護者・地域と連携して教育課題を解決する

学校経営方針

- 【子ども】子どものよさに着目し、自己肯定感を高める
- 【教師】研修から学ぶ、子どもから学ぶ、絶えず学び合う教師集団をめざす
- 【学校】地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを進める

よく考え かいばい励む 子ども

進んで 自分をきたえる 子ども

確かな学力の向上

豊かな心の育成

体力と健康の向上

地域との協力連携

【これまでの成果】

- ・ 落ち着いて学習に取り組む子どもの増加
- ・ 進んで家庭学習をする子どもの増加
- ・ 自信をもって発表したり発表方法を工夫したりする子どもの増加
- ・ 異学年間の「遊び・交流」の増加
- ・ 地域の人にもあいさつできる子どもの増加
- ・ いじめ見逃しゼロ
早期発見・早期対応

育てたい子ども像

【知】 関わりの中で考えを深める力を育成する。

【徳】 自分や友達よさに気付き、相手の立場や気持ちを尊重しようとする態度や実践力を育成する。

【体】 めあてをもって進んで体力や生活習慣を向上・改善しようとする意欲や態度を育成する。

- ① 地域と連携した教育（神山っ子を育む会との連携）
- ② 児童の安全確保（登下校安全・不審者対策）

そのための取組

- ① 基礎的な学力が身に付くよう、神小タイム、Web配信集計システムやワークテストを活用する。
- ② 関わる力・思考力が高まるよう、日々の授業改善に努める。
- ③ 読書活動の充実を図る。
- ④ 家庭と連携した、学習習慣の定着を図る。

- ① 道徳授業の充実
- ② 「かかわり合う力」が高まるよう、異学年交流や体験活動を工夫する。（いなほ班活動、たてわり班活動、全校五頭登山など）
- ③ 日常のあいさつ指導を工夫する。（朝のあいさつ運動、小・中連携あいさつ運動など）

- ① 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、めあてのたせ方や場を工夫する。（スポーツ強調週間、マラソン記録会、なわ跳び記録会など）
- ② 健康への関心と体力の向上を図るため、生活リズムの見直しについての指導や啓発活動を工夫する。（生活ふり返り週間、メディアコントロール、食育指導、性に関する指導など）

目指す成果

教科 総合 外国語

道徳 生徒指導 特活

体育 生活習慣の改善

- 国語・算数ワークテストの正答率が全国平均を上回る児童を、全校の70%以上にする。
- 「関わりの中で考えを深める姿」に関する職員、児童アンケートで、肯定的評価を全校の80%以上にする。

- 「かかわり合い」に関するアンケートで肯定的評価をする児童を80%（80人）以上にする。
- 「きまりを守る」「思いやり」に関するアンケートで、肯定的評価をする児童を80%（80人）以上にする。

- 6・10月に行う体力テストの「50m走」「握力」の結果について、男女別学年平均値24件中13件以上を県平均以上にする。
- 各自が設定したメディア視聴時間について、5日間で4日間以上守ることができた児童を、70%（70人）以上にする。

- 主体的なPTA活動
- 学習支援ボランティア活動
- 学校評議員・神山っ子を育む会役員による学校関係者評価
- 神山っ子を育む会と連携した子育て支援活動
- 保・小・中による行動連携
- スクールガードとの連携
- 地域ながらパトロール活動

長期的課題

自主性の伸長

中期的課題

- ① 確かな学力の向上（思考力・表現力）
- ② 豊かな心の育成（思いやり）
- ③ 体力と健康の向上（メディアコントロール）

【保護者の願い】

- ・ 相手の立場に立った言動をする
- ・ 進んで行動したり発言したりできる
- ・ あいさつがしっかりできる
- ・ 自主的な学習をする

子育てのキャッチフレーズ

手をとり合って 共に育てる 神山の子

中学校区各校との協力連携（ゆるやかな一貫教育）

- 中学校教師による出前授業
- 生徒指導・心の教育に関する情報共有
- 笹小・笹中（小小・小中）との合同活動

家庭との協力連携

- 子どものよさに目を向けながら、育てたい子ども像を共有する。
- 話に耳を傾け、子どもの変化に気付く。
- 手伝いや一人ではできないことは自分でさせ、子どもの自己有用感や主体性を伸ばす。
- 家庭からの協力を得ながら子どもたちの安全を守る。

